

簡単なことって難しい

プロにおハナシ聞いちゃいます!
おしえて
シゴト人



レバンガ北海道所属 選手兼理事長
折茂 武彦 さん

元日本代表であり、現在42歳にして現役プロバスケットボール選手。2011年レバンガ北海道を創設し、選手兼理事長として活躍。小中学生対象の講演会やバスケットボールの指導など、地域貢献にも力を入れている。昨年11月には通算7000得点という偉業を達成。190cmという長身を生かした正確な3ポイントシュートは日本一と称される。現役20年目となるJBL2012-2013シーズンが10月6日にスタートする。



▲練習の合間をぬって取材に優しく応じてくれた折茂さん

17歳新聞

2012
9月

[第5号]



第5号編集委員

- 責任者 第5号編集長 世田 恵美
顧問 教諭代表 横山 学
- 編集者 大浅 啓輔 山田 真代
花井 聖菜 木野 冴香
磯 あかね 澤山 初音
山形 生 川崎 遥
遊佐 あさひ
- 特別記者 佐々木 祐奈 松田 侑菜
(バスケットボール部員)
- ロゴ制作 遊佐 あさひ



取材協力



レバンガ北海道
http://www.levanga.com/

結果を出す責任がある

埼玉県の名門スポーツ高校に進学し、バスケットの毎日を通り越した。36歳で4年ぶりに日本代表に復帰。引退も考えた時期であった。自分を試す気持ちで世界選手権に出場した結果、現役続行を選んだ。その頃、北海道にプロチーム「レラカムイ」が誕生。そして、企業チームの「契約選手」であった折茂さんは「プロ」の道を決意。前チームの設備環境は悪かったが不満はなかった。「これがプロなんだ」と感じたという。チームが弱くても応援に来てくれる3千人の観衆を前にして、バスケットボールが「自分のため」から「人のため」に変わった。プレーすることの幸せを感じ、プロの実感が沸いた瞬間であった。

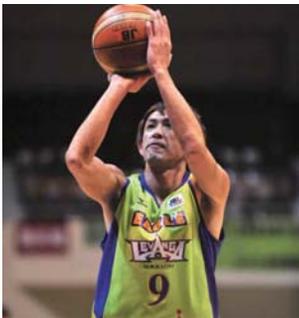


▲折茂さんの勝負服

北海道から多くの人にどんなときも「ガンバレ」と応援してほしい。環境が悪くても、それを言い訳にせずプレーすると決意した自分たちへのエールとしての「ガンバレ」。これらがチーム名に込められている。「言い訳するのは簡単にできる。チームが負ける要素だっていっぱいあるが、それを言っていたら前には進めない。言い訳を探さないことが前に進む一番の方法。」と教えてくれた。

夢を叶える方法

練習ではバスケットボールだけに集中し、コートを出れば一切考えない。「集中力が切れたときにケガをしやすくなる。簡単に切れる切替えが難しい。ONとOFFの切り替えができるか。簡単なことが簡単にはできないんだよね。」シーズン中は身体づくりも意識してヘルシーなジジキスカンを週に2回食べることもあるそう。「考えてプレーしないと全く意味がない。考えない選手は同じミスをする。試合中は練習で考えていたことが、今できているかを考えている。」という。



▲正確な3ポイントシュートはまだまだ健在

また、選手と理事長の2つの顔を持つ折茂さん。運営の面は初めてのことで、かなり勉強の日だった。「最終的に残るのはお金じゃなくて『人』だよ。」と周りへの感謝を忘れない。選手のためにも健全な運営をすることも目標の一つだという。「何かを成し遂げるには助け合いながら、(ネガティブ)を吐かないことが大事。『吐く』という字は口に土。(マイナス)を取れば『叶う』になる。可能性は自分で決めるものだから、何事もチャレンジしてほしい。」とエールを送ってくれた。

ブイェンタビュー



Mifuyu Takahashi
高橋みふゆ

美術部、高校3年生。第45回全道高等学校美術展・研究大会にて「全国推薦」され、今年8月に富山県で行われた第36回全国高等学校総合文化祭に出品。

油彩は3年目

小さい頃から絵を描くのが好きだったが、油彩などの本格的な取り組みは大谷に入学してからだという。

描くときのアレコレ

絵を描くときは「集中すること、頭を柔軟にすること」を大事にして、夢のある絵をつくらうと日々作品に取り組んでいる。自分の身長よりも大きなキャンパス(194cm×130cm)の作品を1ヶ月半で仕上げたこともある。

全国へ、そして将来へ

「自分の甘さが見えた。」と全国の厳しさを感じたようだ。「絵に関わる仕事があったい。絵を描き続けたい。」と照れながらも、強い意志を伝えてくれた。



▲出品作品「少しだけ高い所から」
今まではない視点で挑んだ斬新な作品。

5 せんせいずかん

ココゴ科 イゴショウキ顧問
トバアツシ

- ▶ 生息地 職員室の男くさいとこ
- ▶ 好物 唐辛子せんべい
- ▶ 特徴 ビリヤードの元プロ
- ▶ 座右の銘 頭寒足熱



札幌大谷高等学校音楽科・中学校音楽コース

第27回定期演奏会

2012年11月7日(水) 17:00開場 17:30開演
札幌コンサートホールKitara 小ホール

入場無料 整理券が必要です。
音楽科斉藤香苗先生までお問い合わせください。

今回初めてサクソファンサンブルや札幌大谷大学音楽学科教授の則竹先生指揮による高校生合唱を演奏します。今回も「被災地へピアノをとどける会」への募金活動を行います。ぜひご来場ください。



特設WEBサイトで紙面に掲載しきれなかった記事が見られる!

www.s-ohtani.ed.jp/17